

●笑顔を見せながら滋賀の方言アンケートに回答する高齢者ら(草津市・滋賀県立長寿社会福祉センター)●方言アンケートを悩みながら回答する生徒たち(大津市・大津高)



滋賀の方言、わかる?

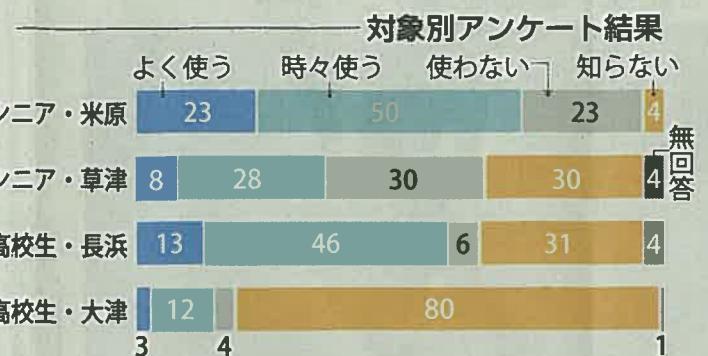
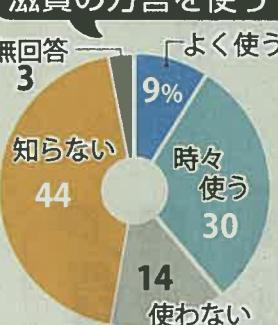
	正答率	高校生	シニア
あんない	1%	47%	
うい	11	15	
がいと	38	31	
けなるい	1	36	
ぬくとい	86	79	
たい	25	20	
やーれん	70	21	
だんない	42	61	
せんどする	34	66	
おおさわ	28	51	

それぞれの方言の意味は9面

9面に続く

# 「近江ことば」使って?

滋賀の方言を使う?



「今から滋賀の方言アンケートをします」。今月上旬、大津市の大津高で教諭が告げると、1年生の教室はざわめいた。「滋賀に方言なんてあるの?」。困惑する生徒たち。テスト形式で回答してもらうち、「わからん...」の声が漏れた。

京都新聞は今月、大津高と長浜北高(長浜市)、高齢者らが学ぶ「レイカティア大学(レ大)」の草津、米原校の4者協力で調査を行った。計366人から回答を得て、年代と地域別で分析した。まずは「滋賀の方言を使うか」と尋ねた。

全年代の合計は「使わない」「知らない」が6割と多數派になった。特に大津高(118人)は8割が「知らない」。1年服部総太さん(16)は、「周囲で聞いたことがない」と苦笑した。レ大草津校(10人)でも6割で、地理的に京都に近い湖南地域で薄れつある現状がうかがえる。

一方、湖北では健在のようだ。「よく」「時々」を合わせた「使う」は、長浜北高(112人)とレ大米原校(68人)で「よく使う」が半数以上を占めた。

「そのお菓子、たい」「おおさわなお返しや」。あなたは滋賀県の方言をこ存じだろうか。京都弁や大阪弁よりも影は薄いものの、独特でユーモアを感じさせる語感に親近感がわく。しかし、この「近江ことば」は日常の取材でほとんど聞かない。実際に滋賀県民はふるさとの方言を使っているのだろうか。ひょっとして失われた言葉?。調査してみた。(中塩路良平、南真臣)

## シニア・高校生アンケート

土曜

フォーカス  
2018

## 「知らない」4割超 気付かず話す若者も

原校(26人)で6、7割を占めた。「親しみの湧く言葉」(長浜市、68歳女性)と愛着も聞かれた。

「方言生存率」の南北格差だろうか。いや、結論を出すのは早い。「自分が方言を使っているか分からぬ」との意見も多く、無自觉に発している人もいるだろう。

より検証するため、具体的な10の方言の意味も聞いてみた。あるいは、「うい、けなるい」...市井の研究者と相談して出した問題は、大阪府と京都市出身の記者にはお手上げだ。湖南地域の高校生にどうて手強い言葉だと推察していた。ところが結果を見ると、思いの外、若者が底力をを見せた。**ぬくと**いは大津高が82%、長浜北90%と高い正答率をマークした。**やーれん**も大津44%、長浜北97%。この2問では、それぞれ同じ地域の高齢者を上回った。

10問の平均正答率を分析した。湖北はシニア層が68%で、高校生の38%に大差を付けた。一方で湖南は高齢者らの36%に対して高校生は29%と健闘した。

レ大草津校の回答者は、6割が県外からの移住者。会社員中村俊逸さん(77)は「草津市」が「山口県から来たから滋賀の言葉はよく分からぬ」と話す。職場が京阪神の人も多く、方言に触れる機会が限られていたのかかもしれない。

『関西弁事典』(ひつじ書房)で滋賀県の項目を担当した滋賀大的松丸真大教授(方言学)は「全國的に若者が方言を使わなくなっている中、高校生の方が使用率の高い言葉があるのは驚きだ。共通語と思い込みながら、実は方言を話しているケースがあるのかもしない」と話した。